

## 「小諸市学校再編計画（案）」に対するパブリックコメントの実施結果

### 1 パブリックコメントの実施状況

#### (1)意見募集期間

令和5年6月12日～令和5年7月12日

#### (2)計画案の公表方法

①小諸市ホームページへの掲載

②小諸市役所（1階展示情報コーナー・2階教育委員会窓口）、文化センター、図書館に閲覧用として設置

#### (3)募集方法

①郵送

②電子メール

③直接持参

④google form

### 2 パブリックコメントの実施結果

#### (1)意見等の提出者数

9名

#### (2)意見等の件数

14件

#### (3)提出方法の内訳

①郵送 0名

②電子メール 3名

③直接持参 3名

④google form 3名

#### (4)提出された意見等の概要とそれに対する小諸市教育委員会の考え方

<別紙1>のとおり

<別紙 1 >

No	意見・質問	回答
1	現場の声をよく聞いていく。管理職だけではなく、現場の担任教科担任の先生方などの声大切です。	現在校長会を中心に小中一貫教育について検討をさらに進めるための組織を立ち上げました。 今後は各校の校長を中心に、教員の意見等を集約していく予定です。
2	子どもたちにも自由に意見を言っていたく場が今後あるといいですね。 正副児童会長に学校の声をもとめてもらうのも良いですね。	新しい学校づくりについては、教員、子どもたち、保護者、地域の方にもご意見をいただきながら進めていきたいと考えております。
3	信濃小中学校のことを良く聞かれます。行ってみた方が良いです。義務教育学校の前校長 2 人本当ですか？私もわかりません。 30 人以下学級でした。中 3 も 80 ⇒ 27+27+26 のクラスで町費の教員をたくさんやっています。	平成 29 年より実施していた小諸市長期学校改築計画検討会でも信濃小中学校を視察させていただきました。年数も経過し、様々な状況に変化があるかと思しますので、改めて視察させていただくことも検討してまいります。
4	2 日とも市民説明会の人数が少ないこと、原因を考えるべきですね。	令和 5 年に入り、市内 6 小学校で各 1 回ずつ、芦原中学校で 2 回の市民説明会を実施いたしました。また、学校再編に関わる検討状況は市ホームページや広報等を活用し公表しております。そのため、一定程度のご理解をいただけたため、今回の参加者数となったのではないかと考えております。 なお、今回の市民説明会及びパブリックコメントの周知については、隣組回覧、市ホームページを活用いたしました。また、小中学校の保護者向けには情報伝達ツールのスクリーンを使用し、幼稚園、保育園の保護者には文書でのご案内をしております。

<p>5</p>	<p>小諸市学校再編計画（案）P 2 1（2） 建物配置案とゾーニング案について</p> <p>1）既存校舎を小学校として使うとリスクを伴うと思われます。 →建築基準法上、小学校と中学校の階段の蹴上寸法が異なります。その時、階段は取り壊して改修する必要が生じるのではないのでしょうか？</p>	<p>1）現在の計画案のゾーニングはあくまでもイメージとなります。ご指摘いただいた階段の寸法については、平成 26 年に国土交通省より発出されております「小学校の階段基準の合理化に関する告示」を参照し、適切に対処いたします。</p>
	<p>2）児童と生徒のモジュールについて （家具寸法や手洗い等の高さ、窓の腰壁高さ等考慮が必要）</p> <p>提案 1）上記等を考慮すれば、中学校は既存の位置とし、小学校は 3 校統合となるので、面積は広さを要するのわかりますので、既存の中学の一部を整理し小学校として改修する。他は小学校を緑の位置に新設したらどうでしょうか？小学校用の運動場とも連携が取れます。</p>	<p>提案 1）上記でも記載しましたとおり、建築、内装を含め設計についてはこれから実施していくこととなります。今後、設計作業を進める中でいただいたご意見も参考にさせていただきます。</p>
	<p>提案 2）職員用、スクールバスの駐車場について相当の面積が必要になると思われます。現在は、建物周辺に無作為に駐車されている様に見えますが、歩車道の分離は必要だと思います。旧芦原保育園を解体し、駐車場としたらいかがでしょうか？</p> <p>以上詳細なプランがわからないので推察ですが提案します。</p>	<p>提案 2）職員駐車場、スクールバスの駐車回転スペースについても検討が必要であると考えております。様々な解決策を検討する中で、芦原保育園の活用方法についても合わせて検討してまいります。</p>
<p>6</p>	<p>懇話会でもお伝えしたことはありますが、改めてお伝えいたします。</p> <p>① 「小中のソフト面をつなぐ工夫」小中が併設校になったとしても、それだけで小中学生のくらし・学びが重なってくるとは限りません。そこで働く先生</p>	<p>① これからの社会変化を見据え教育を大事にこれまでも検討してきており、子どもたちの育成のために小中一貫教育をすすめる方針といたしました。現在、校</p>

	<p>方の意識変化や精神的な余裕、時間的な余白が必要になってくると感じています。逆に言えば、そうしたところをつなぐ工夫も含めて打ち出せば、小諸市の教育がウリとして移住検討者にもアピールになるものと思います。たとえば授業を教えず小中の先生の授業改善を伴走するスクールコーチを別で雇うなども手かなと。先生方を巻き込んだ動きをじわじわと始めるのがよいと思いますし、自分にも何かできることはないかな?と関心を向けていこうと思います。</p>	<p>長会を中心に小中一貫教育推進委員会が立ち上がり、検討を進めております。ただし、ご指摘のとおり、小中一貫教育にしたからすべてがうまくいくとは考えておりません。小中の教員が目標を共有したうえで、子どもたちの交流を促しながらそれぞれを育てていくなど様々な工夫が必要であると考えております。そのための人的サポート等の必要性も含め、子どもたちのより良い育ちにつなげていけるよう検討を進めてまいります。</p>
<p>②</p>	<p>「高校再編との関連」管轄違いで難しいと思いますが、小中も高校も、時期同じくして再編の動きがあるというのは、統一的なねらいをはっきり打ち出せば、これまた「小諸市の教育が変わる」とウリになると思います。</p>	<p>② 子どもの育ちは小中学校だけではなく、幼稚園保育園から繋がり、高等学校へと継続していきます。まずは、義務教育の期間についてしっかり検討し、その後、幼稚園保育園、高等学校との接続についても検討をしてまいります。</p>
<p>③</p>	<p>「市民に開く場づくり」これからの学校は、ますます社会に開き、社会に根ざしたものになっていくべきと思います。安全面での検討事項をクリアすることは前提となりますが、地域とのつながりを生む工夫は必要かと。ただこれも、先生にとって負担増となると持続的でないので、コーディネーター的な人を別で置くのがよいかと思えます。</p>	<p>③ 地域の方と交流することは児童生徒にとっても大変貴重な機会になると考えております。そのため、本計画案に学校施設の地域拠点機能化についても示しております。交流を継続するための教員の負担、ご指摘のセキュリティ面の不安等についても考慮し、人的配置やICT機器の導入等についても検討しながら、地域との交流方法について検討いたします。</p>
<p>7</p>	<p>1. 以前からご意見申し上げている通り、体育館、各種専科教室、プール、校庭は、安易に共通化せず十分な想定される授業数やカリキュラムを想定したうえでインフラの確保をお願いします。また中学生と小学生では身長も違いますのでご注意ください。</p>	<p>1 この間、施設に関するご不安、ご心配等のご指摘は多数いただいておりますので、検討事項として、再編計画にお示しいたしました。子どもたちの教育環境を確保するためにも、順次検討を進めてまいります。</p>

	<p>2. 長い目で子どもを見守るとのコンセプトですが3年周期ぐらいで先生が異動されてしまうと実現は難しいと思います。全員でなくとも先生の異動周期にはご配慮をお願いしたいです。</p>	<p>2 懇話会においても教員の異動による小中一貫教育の形骸化についてご心配の声をいただきました。教員の異動については、長野県教育委員会の人事によるものですので難しい面もありますが、新たに赴任する教員に対して、小諸市教育委員会として小諸市の小中一貫教育を理解し実践してもらえよう、研修会等を開催するなどの検討をまいります。</p>
	<p>3. 小学生と中学生の交流は賛成ですが、中学生は教室間移動も多いですし、小学生とは行動も違いますので、通常時は動線が重ならないように分離していた方が良いと思います。</p>	<p>3 これまでも小中学生の交流について、体格の違いによる事故等が起きないか不安、心配という声をいただきました。先進地視察をしたところ再編前は同様の心配の声があったそうですが、開校後、事故は起きておらず、「中学生のお兄さん、お姉さんが優しくなった。」など、小中学生が一緒にいることで、相互に良い影響が多いことをお聞きしました。 小中学生の交流から生まれる子ども同士の学びは大変重要なものであると捉えております。このような姿が様々な場面で実現できるよう、安全面についても検討してまいります。</p>
	<p>4. 校長先生が二人いると最高責任者が誰かわからなくなります。そりが合わないということもあるかもしれません。この点をご検討いただきたいです。</p>	<p>4 校長が一人の制度として義務教育学校がございます。全国的にも義務教育学校を導入する学校が増えてきております。学校再編計画に記載の義務教育学校の導入についても研究を進めてまいります。</p>
	<p>5. 坂の上小学校の滑川交流について、どうしていくべきか市も一緒にご検討いただきたいです。単純に多数決ではなく、多方面からの検討が必要と思います。以上、よろしくお願い致します。</p>	<p>5 他地域の先行事例によると、学校行事やPTA 活動に関わる検討事項については、開校のおおよそ2～3年前に検討組織を立ち上げて検討をしております。 芦原中学校区の再編においても同様のスケジュールで進めていくことを考えております。</p>
<p>8</p>	<p>再編についてお疲れ様です。説明会出席しましたが、どなたかが質した</p>	<p>統合小学校の統合方法及び校地については、これまでも子どもたちの育ちにとってより</p>

	<p>ように一貫教育の理念ばかりで今回の重要な小学校3校合併についてがあまりに検討中だらけで大変すぎると思います。</p> <p>まずは、3校を水明か坂の上で1校にし、その中で一貫校と理念を作り上げ、その後、小中同敷地にすれば労力とコストは、かなり減るのではないですか？</p> <p>まずは水明小の校舎建てかえ、その間坂の上小で3校合併を始めるというのが、無理がないと思います。検討事項がいきなり減るはずです。</p> <p>芦中への併設は次の世代で。</p>	<p>良い学校を念頭に検討し本計画案に反映してまいりましたので、ご理解いただきますようお願いいたします。</p>
<p>9</p>	<p>◎施設面に関して</p> <p>1. 小学校3校の統廃合に際しては見合った施設の整備が必要です。そこで計画案にはない小学校用体育館の追加を要望します。小中併設により、令和10年度には同じ敷地に小学生・中学生合わせて約900人が生活することになります。成長の度合いが異なる児童生徒がいるため、体育館の使用方法を工夫したとしても天候の悪い日などに児童生徒たちが自由に使える場所を確保する必要があると考えます。</p> <p>運動不足が社会的な問題となっている現代において、体育館は児童たちの適切な運動習慣を促す重要な場として役割を果たしていることを考慮していただければ幸いです。</p>	<p>1 この間、施設に関するご不安、ご心配等のご指摘は多数いただいておりますので、検討事項として、再編計画にお示しいたしました。子どもたちの教育環境を確保するためにも、順次検討を進めてまいります。</p>

<p>2. 中間説明会・市民説明会でも意見が出ていたプールの建設について</p> <p>7月12日付の信濃毎日新聞で取り上げられていましたが、水泳の授業に関して市教委の考え方は民間に委託していく方向でしょうか。</p> <p>建設費用さらに維持管理費もかかるプールについては悩ましい問題だと思いますが、海のない長野県の児童生徒にとっては学校教育の水泳は命に関わる重要なものです。単に費用がかかる、あるいは教師の負担軽減にもなるということで、民間に委託するという発想は好ましくないと思います。</p> <p>説明会ではプールの建設も検討課題に入っていました。新しい小学校が別の場所に建設される場合、小学校専用のプールを作ることになります。併設案では小中併用になり、授業での運用一水深・授業の割り振りーが難しいと考えられますが、1つのプールで小中の水泳の授業が可能だと考えられますか。</p>	<p>2 プールについては、これまでも説明させていただいておりますとおり、民間委託等も含め様々な方法を検討してまいります。</p>
<p>3. 小学校・中学校の校舎の配置について</p> <p>計画案の校舎配置は仮のものだとの説明でしたが、現在中学生が使用している校舎を小学校用に改修するのではなく、小学生用運動場に面した場所に配置することが望ましいと考えます。休み時間に児童がすぐに校庭で遊べるようにすることが重要だと思います。また、統廃合により新たな小学校となるため、古い校舎ではなく、子どもたちがわくわくする新しい校舎で、木をふんだんに使ったデザインが望ましいと考えます。</p>	<p>3 校舎の配置設計については様々な方法が考えられます。子どもたちの学びにとってより良い学校づくりという視点で検討してまいります。</p>

<p>4. 児童館について</p> <p>併設小中学校のそばに児童館を是非建設していただきたいと思います。女性の社会進出が進み、更に核家族化が進んでいるため、放課後の児童には居場所が必要とされています。児童館が併設されることで、保護者が安心して子どもを預けることができ、さらに学年の異なる児童が活動できる場所を確保することが「子育てに優しい小諸市」となり、若い世代の移住につながることを考えます。美南ガ丘児童館は現在、毎日約 80 人の児童が利用しています。令和 10 年には 600 人弱の小学生が予想されていますので、美南ガ丘児童館と同規模の児童館を近くの用地を取得して建設していただくことを強く希望します。</p>	<p>4 これまでも放課後の居場所については多数のご意見をいただいておりますし、教育委員会としても放課後の居場所は重要な検討事項であると認識しております。</p> <p>そのため、現在計画案にある活用イメージにも学童スペースは記載しております。この活用イメージはあくまでもイメージですので、今後設計が進む中で児童館の建設だけではなく、校舎内での機能の複合化など様々な方法について検討を進めてまいります。</p>
<p>5. 統合後の廃校小学校の利用について</p> <p>廃校後の小学校の施設を地域の拠点として利用するなど、様々な意見が出てくると思います。維持管理などに多くの課題が存在するため、教育委員会ではなく別の組織で検討される方向性が望ましいと考えます。</p>	<p>5 学校の跡地利用については、総務部が窓口となって関係部署との調整、連携を図りながら進めてまいります。</p>

10	<p>◎検討案「教育」に関して</p> <p>1. 小中一貫教育について</p> <p>市民説明会で教育長さんがおっしゃった小中一貫した英語教育は重要なことだと考えます。小諸市の英語教育は全国的にも進んだ取り組みでした。以前、渡辺先生の指導のもとで「外国語教育強化地域拠点事業」が行われ、全国対象で研究授業も実施されました。市単独の雇用もあり、AET(外国語指導助手)の先生方も他の市に比べて多いようです。また、当時は市内のAET全員の授業に関するミーティングも頻繁に開催され、その様子はコミュニティテレビこもろでも放映されていました。</p> <p>現在、問題なのは「小諸カリキュラム」が徹底されていない、あるいは行われていないことです。この課題に対処するために、市教委において渡辺先生に代わる資質と情熱を持った先生(指導主事)を招聘し、市教委が先頭に立ってAETや小学校・中学校の先生方をまとめることが必要だと考えます。いかがでしょうか。</p>	<p>1 これまで取り組んできた本市の英語教育については、今以上に充実するよう努めてまいります。</p> <p>また、英語に関わらず小中一貫教育を進めるうえで人材の確保は非常に重要なことであると捉えております。小諸市の目指す小中一貫教育を実現し継続するためにも長野県教育委員会にも相談しながら検討を進めてまいります。</p>
----	---	--

	<p>2. カリキュラムマネジメントについて</p> <p>市民説明会でも現場の声が挙がりましたが、小中一貫教育を実践するうえで、現場の先生方の意見を十分に反映することが必要だと思います。特に統廃合が行われる学校の先生方には情報を丁寧に伝えることが重要です。現場の声なくして実践は不可能です。</p> <p>令和 10 年に向けて、芦原中学校の先生と該当する小学校の先生との人事交流が必要だと思います。いかがでしょうか。</p>	<p>2 実際に指導する教員の理解は非常に重要であると考えております。現在、市内校長会を中心に小中一貫教育推進委員会で検討をしておりますので、今後、校長を通じて教員の意見聴取等を実施する予定でおります。教育委員会と学校が力を合わせて取り組んでまいります。</p>
11	<p>◎計画案決定後の方向に関して</p> <p>1. 令和 10 年度の開校に向けて、様々な委員会が設置される予定とのことですが、各委員会には令和 10 年度に在籍する小学生の保護者の参加を必須としていただきたいと思っております。該当する保護者の意見がなかなか反映されていない印象がありますので、今後は保護者の声を丁寧に聞く機会を設けていただきたいです。</p> <p>これからは該当する保護者自身の関わりとなりますので、保護者の意見を重視して進めていただけるとありがたいです。</p> <p>2. 教育委員会だけでは対応できない問題があると思われますので、すべて教育委員会で対応するのではなく、問題を整理し、対応を依頼する専門部署を設けることを提案します。</p>	<p>1 統合校の開校に向け複数の委員会を組織する予定でおります。教員、保護者が委員となる委員会も発足する予定ですので、その中で保護者の方のご意見をお聞きいたします。</p> <p>2 学校再編は非常に大きなプロジェクトとなります。組織内の人員配置の見直しの検討も含め、関係部署との連携を図りながら進めてまいります。</p>
12	<p>① これからの社会を生き抜くために どうしても必要な力 「主体的にかかわる力・自己の強みを発揮できる力・自ら学ぶ力・社会に参画する力」とありますが、力が弱い子どもに対する目標はないのでしょうか？</p>	<p>① 力の強い弱いに関わらず、どの子の力も育てていくための検討を重ね、小中一貫教育を推進することといたしました。</p>

	<p>② 「小1プロブレム 中1ギャップ 高1クライシス」という表現は一般的には浸透していないと思います。再編計画の理解が広がるための工夫が必要と思います。</p>	<p>② 趣旨の理解が広がるための工夫に努めます。</p>
	<p>③ 小諸市の教育課題は「不登校の増加・学力のばらつき」とありますが、新聞紙上にも連日取り上げられていることに「発達障がい」「性的マイノリティー」「性教育」「貧困」「学校以外の学びの場」などがあります。「多様化の時代」に対応していくことなどを具体的に教育課題に位置付けられないでしょうか？「不登校の増加・学力のばらつき」の括りでは現状に合わないと感じます。</p>	<p>③ 小諸市の教育課題は「不登校の増加」「学力のばらつき」のみではなく、「主な教育課題」という意味で記載しております。誤解を与える可能性がありますので表記についての見直しを検討いたします。</p>
	<p>④ 小中一貫校のメリットが計画の中に挙げられていますがデメリットもあるはずです。どのように整理しているのか公表してほしいと思います。計画の中にも上げていけないのでしょうか？</p>	<p>④ 小学校と中学校を併設する場合と近接する場合それぞれのメリット、デメリットについては、昨年度実施した懇話会の中で整理し、ご意見をいただきました。資料についてはホームページにて公開しております。</p>
	<p>⑤ 小中一貫校が成功している学校はどこにあるのでしょうか？ホームページなどで披露されているのでしょうか？</p>	<p>⑤ 文部科学省のホームページ上の「小中一貫教育の推進について」というページには、全国の小中一貫教育の実践例が掲載されておりますのでご確認ください。</p>
<p>13</p>	<p>総合体育館の移設と合わせて屋内プールを併設してはいかがでしょうか。現在の総合体育館は市街地から孤立しており、洪水や土砂災害(急傾斜地)といった温暖化による災害リスクの上昇が予測される場所にあります。移設場所としては市街地にあり災害リスクの低い坂の上小学校跡地が適していると考えます。小中併設となる芦原中学校や、今後検討される小諸東中学校から等距離かつ近距離に位置し、道路や歩道環境が整っており、新しい体育館</p>	<p>プールに関しては、様々な方法が検討できると考えております。屋内プールの設置に関しても一つの案として検討してまいります。</p>

<別紙 1 >

	<p>や校庭もスポーツ施設として流用できます。屋内プールは多様な市民が通年で利用可能な施設であり、学校併設による複合化は利用時間や方法、駐車場など制約が多く、相応しくないと考えます。民間に運営を任せるのであれば民間の意見を重視し、中長期的視点で学校跡地の利活用を進めてください。</p>	
14	<p>小諸市内小学校他学校統合問題への意見提案書（別添のとおり）</p>	<p>今回、パブリックコメントの対象としている学校再編計画(案)に関する部分は、ご意見として賜われます。」</p> <p>平成 28 年より多くの方からご意見をいただきここまで検討を進めてまいりました。計画策定後は再編に向け進んでまいりますので、引き続きご協力をお願いいたします。</p>



小諸市教育委員会御中

小諸市内小学校他学校統合問題への意見提案書

1/9

[Redacted text]

戦後のベビーブームの中で、小諸町が周辺村と合併して市政が敷かれ、現在は東小、南ヶ丘小、千曲小、水明小、坂の上小、野岸小とあるが、人口減少に伴って市内小学校の統合が問題となっています。

また戦後の人口増期につくりあげた小諸高校と小諸商業高校の二高体制から、人口減少に合わせ統合新高校へと縮小転換します。

他方で四半世紀前、長野オリンピック・パラリンピック大会の記念にと建設を進めて来た弊校は、長野大会からの地雷廃絶提案には96知事選公報に記載した当方提案で成功し結果地雷禁止条約にはつながったものの、長野五輪公式道路・上信越道建設のみを優先したため、建設用地にあたった寮や図書館等に再使用しようとした建物が移転出来ずにいた処を半壊となり立ち往生し、学校湧水横井戸と北側避難路は非人道的封鎖されたままで、二月には市道側溝への配水管未接続騒ぎも起き、開設しての地雷廃絶等国际平和活動には取り組めず国際救助を求めています。今般のG7軽井沢外相会合・広島首脳会合にあたっては各国外相・首相大統領議長にも行っております。

世界の地雷廃絶は、条約が出来ただけでは実現しません。当方はその為に、96公報にも記載しましたが、武力では無く下記教育三機関による教育の力により非暴力で平和的に廃絶を目指す、

- ① 長野県立大学に国際関係学科を設置し地雷廃絶へ熱い情熱と知見、柔軟な思考と創意工夫に基づき行動力あるブレインの日本のみならず世界からの招致、
- ② 信大教育学部に国際教育科を設置し、一校一国運動や外国との交流を支援する国際教育を行なう。多国籍化する信州にあって小諸市の人口に迫る外国籍人が生活しているが、言葉の支援を通して生活支援等を行なう専門員の養成も行う。
- ③ 私学として地雷廃絶活動を通して国際平和社会を切り開いて行く。G7軽井沢会合の際、松本蟻ヶ崎高校書道部によるパフォーマンスを提案し見事に行っていたが、本学が開校していれば本学も行うことが出来たのではと考えている。

十連携福祉施設の関係では、亡父が市にも陳情していた小諸市最初の老人ホーム建設については今尚未完であり、用地には現在市の関係福祉施設があるようだが連携協定が結ばれている訳ではない。本学は市内学校法人からの支援は無い。念の為。

本校が開設されれば、地雷禁止条約を引出した実績を活かし各国にも同じような三

機関を作り国際平和社会を作り出す事を学校目標にしており、日本に於いても、というより世界的にも大変特色ある私学と成ります。私立学校+連携福祉施設は、長野県や小諸市のあたたかいご理解が得られれば小諸市は有力と考えており、その為には長野県や小諸市のご協力を賜りたいと願っております。

小諸市民、長野県民の皆様には、00年知事選の際に全候補者による二回の公開討論会と一回の収録を使い、百年の計、米百俵、北欧型インクルーシブ・SNE教育・一校一国運動や長野オリンピック・パラリンピック大会を活かすを柱として私が仕掛け、投票前に骨格を作り出した現行信州小中高30人規模学級により前渡しのお礼としているつもりです。

本学は四半世紀前の当初、中高一貫を想定していました。しかし今は、多国籍化する信州に合わせて、その子どもたちも来てバイリンガルを活かして学ぶことも想定し、その母国母校ともリモート授業を共同ですすめながら国際平和社会を作り出して行くことも求められていると考えています。その場合長野県のみならず小諸市とも調整が必要になると考えており、小諸市にもあらかじめ意見書を出す事にしました。

### 日本政教はじめ

県内各地を見ると、今まで地域づくりの核として機能して来た学校が消えるとその地域は次第に活力を失っていくように見えます。村唯一の小学校は宝物で、村役場よりも立派につくられ、都会からの山村留学などによるその維持に村の存続がかかっている村もあります。小中高教育のこれからの教育に求められるもの等を含めて各統合での問題点ほかも指摘しておきます。

### コロナの次のパンデミックはいつ頃でどの様か？

完全終結はしておりませんが、教育現場もコロナ禍に揺れた三年間でした。

サーズ、マーズ等の後に来たコロナ・パンデミックに、教育現場は、突然の政府による一斉休校から始まりました。三密にマスク、手洗いに消毒、分散登校に半分授業や情報機器によるリモート家庭授業まで等々と嵐の様な三年間でしたが、コロナ禍という特別な教育ニーズに対応するために文科省は、何でもやって見ろ、若い人の意見を取り入れろ式に対応して来ました。コロナ禍における特別なニーズ教育への対応と学校の情報機器活用がわずか三年間で進展、実現したとも言えます。

しかし、今般の説明会で、コロナの次はどのようなウィルスが来るのかの想定は為されていないように見えます。コロナ禍でコンパクトな街づくり、施設づくりが必ずしも絶対では無いこと、限度もありそうにも見えて来ました。

### 生成AI等情報機器は学校教育、家庭教育をどう変えるか

夏休みの宿題の定番「読書感想文」は今年どうなるかも興味津々です。小学校の出し方は変わるだろうか、中学校はどうなるだろうか…。生成AIの登場により読書感想文はパソコンが書いてくれるようになりました。読まなくても書いてくれるのだから、宿題をなまけていて休みあけ間際になってから親を巻き込んでやるなまけ小僧

と保護者には強力な味方となるでしょう。

それはほんの一例ですが、生成AIに見られる情報機器の進化は今、先ず大学教育をおそっています。そして高校、中学校小学校教育にも、その教え方にも大きな変化をもたらすと予測しますが今年始まったばかりです。

### 十年後、二十年後の学校教育はどうなっている？

#### 建物寿命と教育形態寿命にはアンバランスが生じているのでは？

芦中での説明会の時、確かパソコン教室と言うのがあって、今となつては古いパソコンが並んでいて使っていない旨の説明がありました。パソコンは進化が激しいせいもありますが、固定式のデスクトップのパソコンは授業形態を縛ってしまい、教え合いやグループ学習などには不向きとなっているからもあるのでしょう。

今の一斉式授業形態は、個に合わせる形態に次第に代わりつつあります。情報機器の進化はそれを可能にするのではないのでしょうか。それらの時代の変化を予測しながら統合問題を考えて行かないと、子ども達に合わせて教育を行う筈が、建物にしばられて子ども達を教育することになってしまいそうです。

### 小学校統合と高校統合 立ち往生している本学 小諸の教育資源を活かす

#### ◎ 芦中の失敗と東中の成功 小諸高校の「桜切るべからず」

旧芦中の改築にあたって、中央廊下のきしむ床等を残す要望が出ました。そっくり使う手を提案したと思います。しかしこの前見学した時、きしみなど感じられない程に小さく切られた極一部がカベに掛けられていただけでした。「中央廊下のきしむ床」や「隙間風の入った木製の窓」は歴史であり、同時に梅花教育の伝統と歴史証拠でもあります。これでは精神が受け継がれることは、無いでしょう。

新築渡り廊下に、大木の幹が幾つか並んでいました。これでナニを教育伝承するのかと考えてみたのですが、木を使うのであれば、根っこを含めた幹を使ったらどうかと教頭先生にむちゃ振り提案してみました。根を大きくしっかりと育てそれを基に幹を育てよ、を教えられると思うのですが…

東中の入口に開校時からの伝統を感じさせ、春には満開の桜が今も咲く桜並木が残っています。浅間山のすそ野に位置する火山灰の傾斜地を、北側を削って南側に盛ってグラウンドとしました。その周囲と正門入口の両脇に記念の桜の木を植えたのです。町村合併による市政記念に浅間山登山道一県道峰の茶屋線に植えた桜並木が今も所々残っていますが同じ時に植えた桜です。小諸高校東側にも今も数本が残っています。

家は現小諸高校の北で芦中校区でしたが、父に連れられ一緒に東中でケ峰の茶屋線で植えた記憶があります。「医療は地域住民のもの」のように学校を市民全体でつくりようとした雰囲気がありました。

グラウンド南側に盛った土は軽石の多い火山灰土だったので育ちが悪く、そこに植え

た桜は一旦抜いて、客土して植え直す苦勞があったと聞きます。太い枝を切ったまま防腐処理をしなかった為に幹に空洞が出来ていますが、手入れ次第ではまだ長生きできるかもしれません。次の為に植える時、客土を忘れないで下さい。

小諸高校のグラウンド東側県道峰の茶屋線に、歩道に挟まれるようにして前述桜並木の一部が残っています。県道に歩道をつくる話があり、高校側にある桜の木が何本か切られそうになりました。そこで担当の南佐久建設事務所に提案書を出して、切らないで歩道を曲げてはどうか、そして歩道を使って運動部の生徒がトレーニング出来るように設計出来ないか、ついでに現バックネット裏の法面を工夫すれば、クロスカントリーコースが出来るのではないか、陸上系の体育の先生にも相談してほしい—という趣旨の提案をしたと思います。そして建設事務所の方に「私がああの所の設計をした」と貴殿の名前が残るような仕事をして欲しい、とも伝えました。

#### 旧小諸高校正面玄関階段の踏み板飛込展示—設計関係の人には反応して欲しかった

相生会館で開かれた小諸新高の会議の時に、旧小諸高校正面玄関階段の踏み板一枚と手すり支柱、北側校舎のひさし飾りを持って行き歩道側に展示しました。

旧小諸高校の正面玄関を入ると二階へと上る幅広の階段があり、踊り場を経て左右の小階段に分かれる構造で、音楽科ならミュージカルが出来そうな洒落た作りでした。隈研吾氏ならおそらく即反応したと思います。

二校の統合は双方文化の持ち寄りから始まると考えますが、小諸商業側への統合で、小諸高校は移転してからそう経っていませんし、「ボンカレー広場」の絵を描くのもナンでしょうし、ですから旧校舎の用材使用もその一つと考えたので紹介したのですが…隈流の考えくらい熱く受け留めて欲しかったです。ちなみに音楽科ホールへの階段も寄木合板で幅と厚みはほぼ同じで一枚のはめ込みなら、耐火処理さえすれば出来るように思いますが。現旧踏み板二枚を新高音楽棟階段にはめ込む事なら設計できると思います。(統合)学校設計した経験が無い事が影響しているのでしょうか。

#### ◎米百俵について

河合継之助が率いた北越戊辰戦争で戦火に遭い敗れた長岡藩は、七万四千石から二万四千石に減らされ、実収にして六割を失って財政が窮乏し、藩士たちはその日の食にも困る状態であった。

これを見かねた長岡藩の兄弟藩の三根山藩から百俵の米が贈られることとなった。藩士たちは、これで生活が少しでも楽になると喜んだが、藩の大参事小林虎三郎は、贈られた米を藩士に分け与えるのではなく、売却の上で学校設立の費用とする事を決める。藩士たちはこの決定に驚き反発して虎三郎のもとへと押しかけ抗議するが、それに対して虎三郎は、

「百俵の米も、食べばたちまち無くなるが、教育にあてて復興の人材を養成すれば明日の一万俵、百万俵ともなる」

と諭し、長岡坂之上町に国漢学校を設立することとなった。長岡における「米百俵の精神」の始まりである。

国漢学校における「米百俵」の精神は後の阪之上小学校に受け継がれ、現在の長岡高校へと引き継がれた。長岡国漢高校などと名を冠した校名にするのではなくその精神を引き継いだがゆえに進学校としても新潟では名を成している。地域にも「米百俵精神」を活かす取り組み市民活動として受け継がれている。

#### 小諸と無縁でない米百俵の精神 その精神を今に活かすには 次は救援米を贈る役

長岡藩、与板藩、三根山藩は牧野忠成氏の兄弟藩であり、与板藩の子康重は小諸藩主である。小諸藩からも救援米を贈ったとする書物は小諸公共図書館には無かった。

昭和29年、市政施行に伴い市立坂の上小学校が出来る。その校名由来については知りませんでした。地形的に坂の上にあるからを越え、長岡阪之上小学校をもあてた歴史ロマンの命名とも読みたい。

しかし、小諸にはこのような関係性があるにもかかわらず、授業で苗を植える小学校はありますが、その歴史事実は教えていないようですし、精神となると市民の取り組みもありません。先に行われた小学校統廃合の説明会で、ここぞと言う時に山下教育長は一言も引用されませんでした。この史実をどう活かして良いかが…

#### 小諸新高との関係 新高の特色はナニ

新高の特色をどうするのかについては、中高一貫として進学をも特色としたいとする考え方も市民にはあります。然し、小諸周囲の高校教育環境を考えた時、公立校であれ私立校であれ現存の野沢北高、私立佐久長聖中高、上田高校等に対抗した進学校とするのは至難の業と言わねばなりません。岩村田高等女学校の跡地から出発した佐久高校が現佐久長聖中高となる為に、野球で名を挙げ、進学クラス特設により難関大進学も図りました。野球は県外勢が多くを占め、今大会の登録選手中佐久長聖中学は三名、県内中学は二名です。逆に佐久長聖中から岩高に3名、佐久総合に1名が登録されています。さらに北高は南高と併合して進学を目指すでしょうし、跡地の構想もあるようです。ですが学力も高い北欧式の教育は検討しても良いのでは。

特色で光ることで全体も光る、が一つの戦略と思います。長野商業には「長商デパート」が地域一体型として引き継がれています。過日県庁でその長商デパートの意欲に満ちた三年女性徒社長他の話しを聞く機会がありました。社長は「親譲り」では無く立候補して選挙で選ばれるから阿部知事や内堀教育長等を前にしても元気で明るい意欲を示していました。一方の小商の小商デパートは地域一体型の特色維持と成し得ませんでした。小諸から東京と直通の特急列車が消え、唯一のデパートが撤退し中央商店街の衰退化と合わせるかのようでした。小諸発祥の特色あるスーパーつるやを活かし「小商スーパー」に「業態転換」する策も取りませんでした。「小商店街」で魅力ある特色・キャッチコピーと言えるか、学ぶ意欲が出るか、地域に一体型の協力体制が作られるかは…今の処まだ見られていません。

### 私立小諸義塾について

明治26年開設した私立小諸義塾は、国語、英語教師に島崎藤村、数学、物理、化学に理学士鮫島晋、図画に丸山晚霞ほか錚々たる教師陣であった。そのため初期には近隣町村だけではなく広く長野県内や全国からも塾生が集まったようだ。しかし、木村自身が牧師であったことも重なり、次第に町側や住民との関係が上手く行かなくなってきて、包容力があつたとされるそれらとの仲介役を失うと求心力が弱まり、藤村も去り塾生は町と近隣だけとなり閉校に向かわざるを得なくなった。小諸市民に思い入れのある小諸義塾は、十余年で幕を閉じた歴史ロマンでもあります。

同年メソジスト小諸教会が創立されました。小諸教会百年史には、教会の創立に9ページ、小諸教会と木村熊二に5ページ余、小諸幼稚園の設立と日曜学校に12ページ余があてられています。閉塾後の木村熊二が度々小諸教会で説教したとも記されています。

### 私立小諸義塾名を公立高校名に使うのは禁じ手 教会史には5ページ余の関係記述

高校野球県大会出場72チーム名を見ると、地名以外に冠したと見られる公立校は、木曾青峰、箕輪進修、諏訪清陵、下諏訪向陽、伊那弥生ヶ丘、飯田OIDE、飯田風越、松本美須ヶヶ丘、松本志学館、大町岳陽、中野立志館、須坂創成、丸子修学館・・・そして出場していない東御清翔。何れも宗教色は感じません。弥生ヶ丘は弥生土器が出たので命名したとありますし各地とも様々考えて名付けられているようです。小諸公共図書館は新校名募集前にこれらの由来等を紹介すれば良かったのだと思います。

新校名募集結果を見ると「小諸義塾高校」がダントツのトップです。小諸では特に、島崎藤村や小諸義塾には特別な思いもあります。しかし、それに便乗して小諸教会の小諸幼稚園卒園関係者、そのPTA関係者が募集に働きかけを行なったとの情報が私にも幾つか届いています。自分たちの教団と宗教的つながりがある私塾名を取って公立高校名に付けるよう働きかけるのは禁じ手だしズルです。名前を取ってつけたら新高に開拓精神が伴う訳ではないし長岡高校の様にGMARCHにも進学出来る訳ではないからセコい。小諸では名のある教育関係者たち、小諸義塾に関わる会長館長教育長・経験者など本来私塾の名を盗って公立高校名に付けるのは如何か、と、ご自身やお子さん等がどの幼稚園を卒園しようが、個人としてどの宗教を信じようが論すべき立場の人までが沈黙・だんまりしては、私が言うのもナンですが大変残念と言わねばなりません。教団幼稚園長は、せめて「光栄に思うが、何分にも教団と関係の深い私塾の名であり使わないでいただきたい」等とするコメントを出すのが私学といえども立場というか見識とありますが如何でしょうか。

### 教会方式で社会福祉に進出し問題化 地域福祉論と同教会方式に合わない面がある

小諸新聞が小諸義塾高校名をフライングとイイますかミスリード等した問題で再び火がついてしまったのですが、小諸高校、小諸商業高校の生徒やご家族の皆さん地

7  
域の皆さんの為にも最低限は説明しておく方が良いと考えたのです。

以下は関係皆さんからすると、本当は知りたくない事かもしれませんが、反発するかもしれませんが。小諸幼稚園関係者や現小諸学舎関係者、そして小諸教会信徒の皆さんの多くは多分ご存知無いかほんの一部程度かと思います。ご存知なのは小諸教会百年史の編纂者五名+程度かもしれません。

亡父が自らの用地に小諸市最初の老人ホーム建設を計画して市にも陳情していましたが進展しませんでした。そこに小諸教会・一羊（異字体 いちこう 子羊はキリスト教的な意味がある）会による知的障害者の施設をつくる話が持ちかけられたのです。老人ホーム建設用地に先を譲って小諸学舎が建てられることになりました。その当時、後で解った事ですが宗教的姉妹施設にしようとして併行して建設運動を進めていた佐久学舎側は宗教性が強いとして袂を別ち独立しました。しかし、そのあたりから今度は施設拡大を図ってか寄付面積が足りないとおの手この手で迫って来ました。要するにもっと寄付しろとしてきたのです。（貧農の亡父が持っていた用地を）全部寄付しろ旨まで言葉巧みに迫って来たのです。地区育成会から子供みこしの寄付を今年はハチマキを新しくするので五百円づつ増やして下さい、とは訳が違います。それが上手くいかないとは今度は貢献度の大小の否認と称して影響力をそぐ作戦に出て来ました。あとでこれは運営・経営に参加するための理事枠等を否定したようです。そして亡父老人ホームが出来た際の人材養成も行わず、老人ホームとの共用グラウンド地にしようとしたヶ所にまで寄付強要を図って失敗し、老人ホームの為に用地を返す事もせずに、後で阿部知事私邸が隣に出来る現在地に退去したのです。

年始に種銭をくれる神社があります。商売して翌年は倍にして返すのだそうです。倍にせずとも返せば次の人が使えます。インドでしたか、で行われている少額融資方式による社会福祉—地域福祉論の経済手法と思います。種銭は次の人への公共財です。

小諸義塾高校名問題で初めて見た小諸教会百年史と重ね読みすると、それらの時に使われた教会式手法は統一教会方式のマインドコントロールとそっくりだったので。先頃統一教会が問題化してマインドコントロールのやりかたをかなり詳しくテレビ報道されたので解りびっくりしたのです。お断りしておきますが引用する統一教会他と小諸教会・一羊会が同じだと言うつもりはありません。教義も違うとの事ですし壺は売りませんし集団結婚式もありません。組織規模もごく小さいものですし被害は一家族です。

地域福祉論では相互扶助・お互いに助け合うとしていますが、教会方式の組織論で設立運動を推し進めた為亡父の老人ホーム建設を別団体として支援などせずに、教会方式の傘下に入れる＝乗っ取る着地を掴んだのです。佐久学舎の失敗は「衣の下の鎧・よろい」をしっかりと見られてしまったが故に袂を分けられたのでしょう。シスター服姿の職員に会って聞いた事がありますが、故野中広務氏の子ひつじ苑ともカソリックを越えて違うようです。

新築した牧師館の借金返すのに障害者を利用？ 活用？

教会や牧師館、幼稚園舎を改築することになりましたが、牧師館の借金返済が問題となった様です。教会史254ページに次の記述があります。

その他、負担金の減額申請をする。建築に伴う借入金返済に関する件では、返済の財源を作る一つとして、教職舎（牧師館）を小諸学舎（心身障害者生活寮・坂の上生活舎）へ賃貸する（十年間）ことになり、管理上の責任は小諸学舎が負うことになった。

当時の東海教区の執行部が、小諸教会自らが作りだしたこのような事態に対して、祈りと具体的支援の手を差し伸べ、小諸教会と苦難を共有されたことを、今、時を隔てて記録を読むと、百年史編纂者の一人として、また新たな感動を覚えるのである。

坂の上生活舎を通じて公金が牧師館側に支払われているので書くのですが、過去に問題を起こした宗教団体が小諸や周辺に複数ある中で、私が言うのもなんですが、大変失礼乍ら、それらの良いお手本になって欲しい為にももうちょっとしっかりしてほしいと願いつつ書くのですが、その教会宗教の良し悪し等では無く皆さんも先ず次を考えていただきたいのです。尚、山下教育長さんに教育的解決策として、小諸高校と小諸商業高校で特別授業の授業者をして欲しいとしたその一部です。

- ◎ 小諸でも撮影したふうてんの寅さんだったらどう考えるのだろうか。
- ◎ 懐古園で旅人や学校帰りの芦中生にも草笛の吹き方を教えてくれ、舟木一夫にも教えた映像がHPに残っている、自らは総持寺の首座をも務めた経歴を持ち、「太陽山青空寺」（懐古園の笹竹草むらに、ビニールの覆いして雨をしのぎ、七輪で御飯たいて食べていた所を指すようです 住まいではありません）住職を自認した草笛禅師であったらどう考えるだろうか。
- ◎ 山形県小国町にある基督教独立学園高校の「うめ子先生」だったらどう考えるだろうか。
- ◎ さとみさんの為に、はるばる熊本から、海越え山越え川越えて信州上田の地迄来られた慈恵病院赤ちゃんポストの蓮田真琴看護師だったらどう考えるだろうか。
- ◎ 私がファンの子どもの一休さん、オトナの一休師だったらどう考えるだろうか。
- ◎ 映画「天使にラブソングを2」に出て来る教会立高校の経営危機を、音楽コンクールに出場して優勝し救った主演女優ウーピーゴールドバーグの音楽教師役だったらどう考えるだろうか。
- ◎ マザー・テレサさんだったらどう考えるだろうか。等々。

事実を牧師館の借金返済という側面からしか見ていない事を、ある意味大変正直に書いてある。信徒の皆さんがせっせと働いて献金し牧師館の借金返すんじゃなくて、いくら献金が集まるのか解んないんじゃないかと、手っ取り早く、公金から支払われる障害者の生活支援金？により安定的に借金返せることに眼を一付けた信徒が居て、（その？）有力信徒が施設長していた小諸学舎関係の障害者を、牧師館を坂の上生活

舎として貸して住ませたようにも見える。

元県障害福祉課長竹内吉正氏が退任後長野大学で教えた地域福祉論によれば、障害者から見た記述は一語も無いから、地域福祉論を牧師たちは勉強せずに牧師館に住ませた、しょうがい者視点からは考えていないようにも見える。

また宗教的意味からは、おそらくは異教徒であろう生活舎の障害者たちは教会一角の牧師館に住まわされたことになる。積極的に十年間と言わずそのままずっと続けていたら善光寺の様に異宗派との、尼寺との合寺みたいになるのでは、良い事なら他の教会の牧師館や神父館も見習って同じようにしたら各教団の宗教改革等につながったのでは、県内でも人口減少で廃寺や兼寺が出ているので仏教寺院でも同じようにして和尚さんの住まいを改築して障害者とシェアハウスにしたらいいのにと、浅はかに考える。

◎義塾に拘らずに名付けを 精神は批判を持ち活かす 小学校名への影響を避ける

小諸新聞がフライングと言うかミスリードして「小諸義塾高校」として大きく紹介してしまっている以上新高史に残らざるを得ません。「義塾」を使った別校名は考えられますが、小諸義塾と関係の深い小諸教会が進出した障害者福祉で、上田新参町教会他の教会では起きていない様な佐久学舎問題を起していますし、退去問題では自らの力では過去の問題にさえ向き合えない、過ちを地域福祉論の視点からさえ訂正出来ないまま退去しています。統一教会問題とは規模や内容は違いますが、新高生がそれら負の歴史証拠のある中で学ぶ意欲が生まれるとはどうも考えられません。長岡高校と同じように校名としてでは無く、その切り開いた精神として、十余年で終わった歴史事実への批判的視点も持つ、教会とは一線を隔する継承はあり得ると思います。

新高生には、小諸義塾と共に次をも教訓として活かして下さい。

小諸教会百年史に登場する人物が年賀状に書いて送った歌

我ひとり羊と共に荒れ野原

小諸市教育委員会 私立小諸義塾沿革誌に登場する人物からの返書

狼も羊も共に荒れ野原 (かいこんち)

余談 荒れ野原で悪かったね。奥さんと一緒に汗水流し開墾した土地ですよ。

伊藤長七先生なら今の小諸教育に対しナニを語るか

大正自由教育により信州教育変革に大きなインパクトを与え、後に現東京小石川中高のもとをつくりあげた伊藤長七先生は小諸小学校にても教え、小諸を去る辞の碑を市内寺院に残しています。

人口増の中での旧態教育を変えたと見るが、多国籍化、多様化、統合化の流れの中、人口減少下において伊藤先生が今おられたとすればナニを語り、一体どのような教育改革を行なったであろうか。おそらく私が今つくろうとしている私学+連携福祉施設に意見を述べてくれ、粗野で大変失礼な物言いを正してくれたのではと思います。

29 - 2023.7.7.

## 宇宙授業

参  
考  
添  
付

正月に宇宙飛行士、毛利衛さんの「宇宙授業」の再放送を見ながら、とうとう宇宙から授業をする時代が来たかと二世紀の教育を思い描きながら、考えさせられた。

去年は小諸義塾開塾百周年記念で元宮城教育大学長の故林竹二先生の授業記録や、南フランスのフレネ学校の個別教育の記録映画、青森県六本木小学校（当時伊藤功一校長）の記録を見たばかりだったので、お屠蘇を傍らに考えた。

子供たちが宇宙にいたら、言葉はどうするのだろうか。国や学区はどうなるのだろうか。学校の広さはどうするのだろうか。出席はどうなるのだろうか。教育形態、内容はどうするのだろうか。体育の飛び箱はどうするのだろうか。飛んだら宇宙のはてまで飛んでっちゃうか。前転は皆ができるな。

教える形態だって他にもいろいろ考えられる。今回はたまたま小学生で日本語でやったから生徒も先生も日本人同士だったけど中学生だったらカタコトの英語で同乗の米国人とも授業が成立したわけで、NHKがもうちょっと国際的だったらなあと残念に思ったり。杯がすすむに従って自分では次々と名案がうかんでくるつもりになって段々得意になってきたが、ひとから見れば多分、私のカラオケ同様、調子外れの雑音と思えただろう。アメリカが搭乗者の国、人種や宗教を多様化しているんだからせめて他の同乗者も先生になってよかったのに。複数の先生が授業すればあの実験だってやりかたは他にもあったなあ。例えば地上にももう一人先生がいて同じ実験

を地上でして較べたらもっと解りやすくおもしろかったなあ。紙飛行機なんかはテレビ画面を二つに分けて同時に宇宙と地上でしてみせたら違いが良く解ったのになあ。大分酔ったせいか宇宙のことを考えているせいか考えは宇宙船のように自転と公転を始めてまともになりがなくなってきたようだったが、映画祭でのフランスの授業記録の映画を思い出しながら、日本の学校教育の授業が伝統的に一人の先生が多数の生徒を教えるという形式が続きすぎ、NHKの人も毛利さんも複数の先生で授業をするという形態すら考えられなかったんだなあと残念になった。算数のように学習進度に違いが出る科目への教育形態として有効といわれる複数先生制度の活用を思い出した。しかし現実には二人の先生で教えることには先生の側の相当な抵抗があるんだしそれをやれというのも、例え教育県といわれる我が長野県でも、いざ実施となると様々な問題を乗り越えることに大分時間がかかり二十世紀中にはことによると無理な注文かもしれないだろうなと思った。

先生はいわば一国一城の主。それが二人もいて、互いに挨拶もせずケンカや主導権争いしてたら授業どころではないし、やっぱり、大規模の、公立学校では、ムリかなあと、急に宇宙の話から現実のことが気になり出し、宇宙時代にも続きそうな心配にいささかうんざりしてきた。

どうも今日はお屠蘇を飲み過ぎて「宇宙酔い」し、つい余計なことを心配しすぎたようだ。この辺りで寝て初夢を見るとしよう。